

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2770107106
法人名	株式会社世音
事業所名	グループホーム ピジョン霞ヶ丘
所在地	大阪府堺市堺区霞ヶ丘3-6-2 (電話) 072-241-3170

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年12月3日	評価確定日	平成19年12月21日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年1月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 9人, 非常勤 9人, 常勤換算	12.8 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1500 円			

(4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	9名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	65歳	最高	90歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人大泉会大仙病院 医療法人正歯会竹村歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな高級住宅地にあるグループホームです。リビングの窓からは、隣の学校の庭が見渡せ、ホームに居ながら季節の移り変わりを感じる事が出来ます。ホーム内にも中庭風のデッキがあり、入居者は自然の光が差し込む中で、和気あいあいと生活されています。自由な暮らしを基本に一人ひとりの思いに添ってケアされているので、入居者は穏やかな表情をされています。行きたい所やしたい事ができるように個別での援助や外出の機会を多く持ち、できる時にできる事をたくさんしていただきたいと考えられています。職員は、個々に考え、判断して実行することができ、法人としてはバックアップ体制が整っています。より個人の希望に添うことができる取り組みとして評価できます。入居者の大切な人生にかかわる仕事であることを理解し、話し合いを重ねてケアをされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果については、ホームでは今後の課題とされ、運営推進会議等でも報告されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者と各ユニットのリーダーで取り組み、できたものを他職員に回覧し意見を聞き参考にしています。項目に対しての理解ができ、日常のケアを振り返るいい機会となっています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員・行政・地域包括支援センター・家族代表と管理者、法人代表が参加し、2ヶ月に1回開催されています。ホームを理解してもらえるように、取り組みや行事を報告し、地域からは率直な意見やアドバイス、行政からは情報をもらい有意義な場となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの玄関には意見箱を設置し、ホーム側や行政の相談窓口も文書に明記しています。家族の訪問時には話をし、意見を言いやすいような雰囲気作りを意識して作っています。家族からは意見や気付きを言ってもらえていると感じています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事であるお祭りや、ふれあい喫茶に参加したり、近所の喫茶店やスーパーを利用しています。近所の方とは挨拶をしたりで顔なじみになってきました。学校のイベントにも招待され、徐々にではあるが地域の一員となってきています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分らしく暮すというということを基に作った理念は、生活していく中で基本的なことを考えられたもので、ホームの開設当初からケアの手本になるものである。	<input type="radio"/>	地域密着型サービスのホームとして、地域とのかかわりや役割という観点からの文面を盛り込まれる事を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には、理念に基づいてホームでのケアの提供のあり方を話している。会議等でも、理念について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事であるお祭りや、ふれあい喫茶に参加したり、近所の喫茶店やスーパーを利用している。近所の方とは挨拶をしたり顔なじみになっている。学校のイベントにも招待された。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者と各ユニットのリーダーで取り組み、できたものを他職員に回覧し意見を聞き参考にしていく。項目に対する理解ができ、日常のケアを振り返るいい機会となっている。	<input type="radio"/>	全職員それぞれが自己評価を行い、それを基に話し合うことを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・行政・地域包括支援センター・家族代表と管理者、法人代表が参加し、2ヶ月に1回開催されている。ホームを理解してもらえるように、取り組みや行事を報告し、地域からは意見やアドバイス、行政からは情報ももらっている。		

グループホームピジョン霞ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には行政からの参加もあり、議事録送付している。相談もでき、適確なアドバイスももらえる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個人ごとに一ヶ月の様子や状態、行事等を載せた写真入の便りを作成して送付している。家族の訪問時には話をする時間を設けている。遠方の方には電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関には意見箱を設置している。ホーム側や行政の相談窓口も文書に明記している。家族の訪問時には話をし、意見を言いやすいような雰囲気作りを意識して作っている。意見や不満を言ってもらえていると思っている。	○	より、家族の思いが把握できるように、満足度調査的な項目を定めたアンケートをされてはどうでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人代表、管理者として働きやすい環境作りを意識している。新任の職員は時間をかけても、入居者となじみの関係が作れるようにと考えている。離職も少ないほうである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修受講の際は、報告書を作りそれをもとにホームで伝達研修をし、職員間で共有を図っている。ホーム内では、話し合いの機会を多く持ち、日常では、働きながら学ぶことを大切にしており、職員同士情報交換をしながら成長できていると感じる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、意見や情報交換をしたり、勉強会をしている。同業の知人との交流では、情報収集の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらい、リビングで過ごしてもらう時間を持っている。その時の様子からホームに馴染めるかどうかを見極めている。入居一ヶ月は家族に頻りに連絡し、入居者の不安を軽減し、馴染んでいただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に家事をしながら、方法など入居者より教えてもらう場面や、昔ながらの習わしや風習を教えてもらうことを大切にしている。出来る事に関わってもらいながら、入居者と支え合ったり、喜び合ったりしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で把握できたことを職員間で共有している。思いを表す事が困難な方にも、状況や様子観察で把握できるように心がけている。センター方式のシートの活用を検討している最中である。	○	センター方式のシートの活用を検討中とのことだが、取り組まれることを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者とは日常の会話の中や様子で、家族とは訪問時などに意見を聞き、それぞれケアプランに反映している。大阪府独自のアセスメントシートにて情報を収集している。	○	家族・利用者の、それぞれの意見を分かりやすく記録するために、書式の検討を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者が集まってカンファレンスを行い、計画の評価をし、モニタリングしている。3ヶ月に1回は見直しをしており、状態の変化には随時対応している。家族には、カンファレンスの報告を行い、ケアプランには同意をもらっている。		

グループホームピジョン霞ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別での外出の機会が多く、夜間でも必要時にはホームに駆けつけて、入居者に安心してもらえるようにしている。通院介助や美容院への送迎もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に二回、協力医療機関からの往診がある。以前からのかかりつけ医との協力もある。医療連携加算として訪問看護とは24時間の連絡体制があり、週に一回来てもらえる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての看取り指針があり、家族・利用者の希望を聞き同意書をもっている。その時になれば話し合い、最善の方法で対応することとしている。医療機関との協力も約束できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いや態度は目上の方に対して失礼のないように心がけている。不適切な場面が見られた場合は、職員同士が注意し合える関係になっている。個人の記録物については事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に添ってケアしている。人員が足りない時間帯であっても、まず出来るように考えて行動している。起床時間・就寝時間等定められておらず、それぞれのペースで過ごされている。		

グループホームピジョン霞ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや配膳、後片付けはできる方と一緒にいき、食事と一緒にしている。月に何回かは、献立作りから買い物、調理までを入居者で行っている。個別での外食の機会は多くある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に三回の入浴の決まりはあるが、毎日でも入浴してもらえる。希望であれば夜間の入浴も支援している。銭湯に行って背中を流し合うこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの趣味を大切に考えて、ホームでも継続できるように支援している。経験を活かして女性の方は家事、男性の方には力仕事等、自然と役割が出来ている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物は毎日出掛けている。近所の喫茶店へ行ったり、自動販売機でジュースを買ったり、郵便局へ行ったりと日常的に外出している。個別での外出も多々ある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯の意味もあり玄関は施錠しているが、入居者が自分で開けやすいような位置の鍵だけを閉めている。外へ行きたいと思われたら、すぐに行けるような体制をとっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。消防署との協力での訓練もして、救急救命講習も受講している。地域運営推進会議でも非常時についての話をしている。		

グループホームピジョン霞ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリーや栄養バランスを考えた献立を立てている。個人の摂取量は記録している、水分は時間を決めて意識的にとってもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は季節を感じる飾り付けがなされており、リビングの窓からは、学校の庭が自分の庭のように見渡せ、木々の変化で季節の移り変わりを感じることができる。ソファのコーナーや畳のコーナー、廊下にはベンチもあり、それぞれのお気に入りの場所で過ごされている。事務所でも炬燵に入ってテレビを見ることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使われていた家具を持ち込まれている。装飾品も好みの物が置かれている。お茶碗やお箸等も入居時に持ってこられている。		